



INVEST GUNMA

Gunma Prefecture PR materials for
investment promotion, business attraction
and location support.



群馬県で新たなチャレンジを

群馬県は、県内産業の高付加価値化に向けた取組を進めており、デジタル技術の活用や人材育成にも力を入れています。また、群馬発の新たなビジネスやサービスの創出を目指して「全県リビングラボ構想」を掲げており、企業等の新しい挑戦を積極的に受け入れ、企業間のマッチングや新たなビジネスの実証・実装プロジェクトの支援を行う等、企業が新規参入しやすい環境づくりも進めています。

群馬の環境や魅力を知っていただき、群馬県での新たなチャレンジをご検討ください。

INVEST GUNMA

CONTENTS

- 2 群馬県で新たなチャレンジを・CONTENTS
- 3 群馬県について
- 4 群馬県に関するデータ
- 5 生活環境
- 6 アクセスの利便性
- 7 災害リスクの低さ
- 8 豊富な資源
- 9 群馬県の産業 | 現在の産業構造
- 10 | 目指す姿 - デジタル・クリエイティブ -
- 11 群馬県最新アクション | 全県リビングラボ&ぐんま未来イノベーション LAB
- 12 | ぐんま未来共創トライアル補助金
- 13 | デジタルクリエイティブ人材育成拠点
- 14 支援制度 | 本社移転・拠点進出
- 15 | クリエイティブ関連企業
- 16 進出企業の声

群馬県について

群馬県は日本の北端部である宗谷岬と南端部である佐多岬を結ぶと、ちょうど真ん中に位置しており、関東の北西部、東京から100km圏内に位置しています。面積は6,362km²、大きさは全国で21番目、関東地方では栃木県に次ぎ2番目です。南部には平坦地が広がり、多数の工場が集積しています。北部や西部は山地が多くを占めており、山、高原、湿原、湖沼、河川など変化に富む豊かな自然に溢れています。



人口



1,890,103 人

群馬県移動人口調査(令和6年9月1日現在)

面積



636,228 km²

国土地理院調べ(令和3年7月1日時点)

市町村数

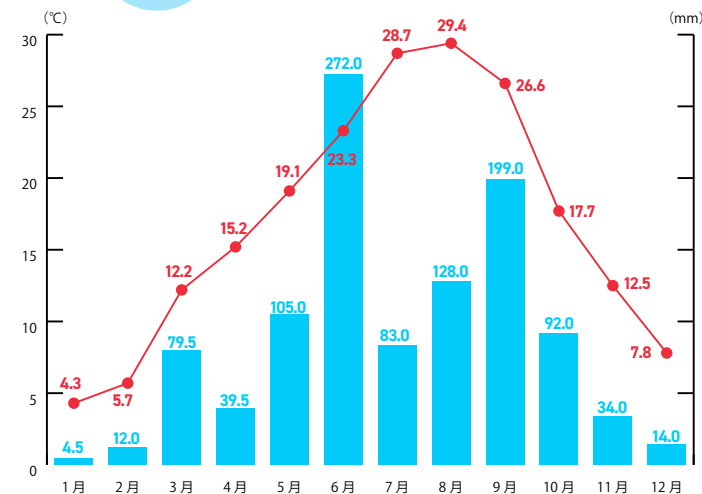


35 市町村

令和6年9月1日現在

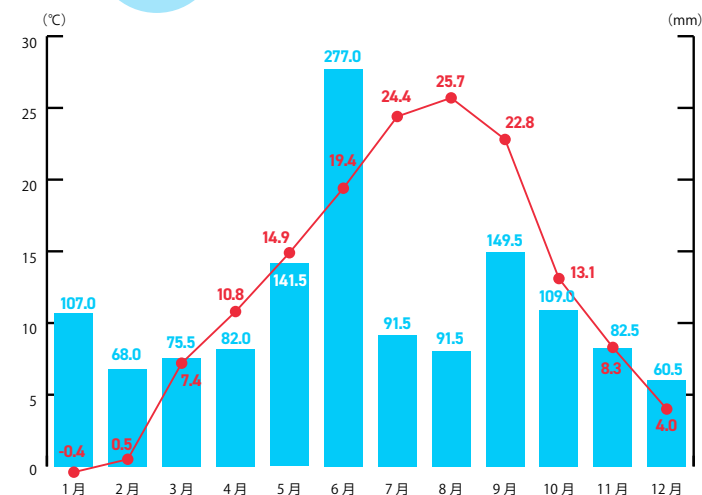
市街地 (前橋市)

平均気温と降水量



山間部 (みなかみ町)

平均気温と降水量



● 気温 ● 降水量

出典 気象庁 過去の気象データ2024

群馬県に関するデータ

移住地希望ランキング

第**1**位



認定 NPO 法人ふるさと回帰支援センター
地方移住に関するアンケート（2024 年 1 月～12 月）調査結果

工場立地件数

全国 第**4**位

(令和5年)

41件

出典 経済産業省 2023年工場立地動向調査

農業産出額

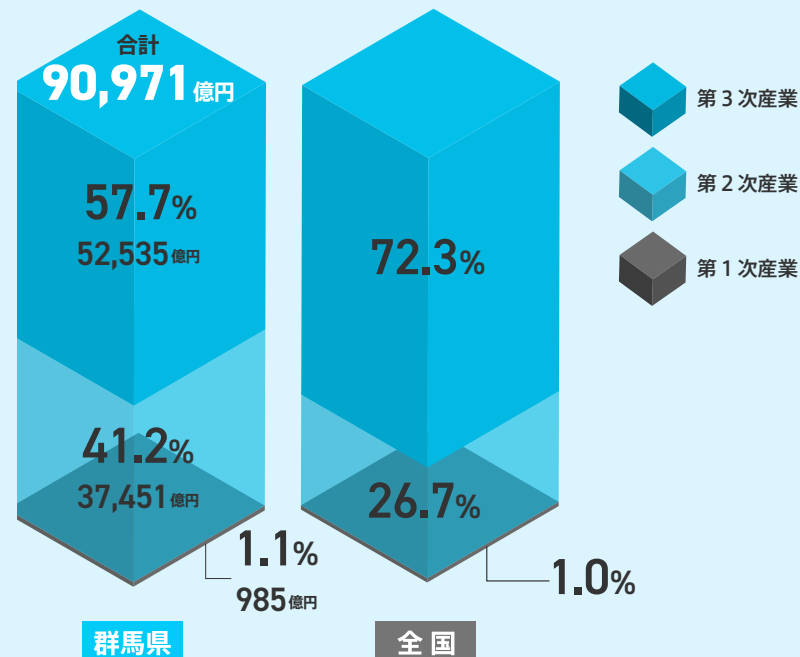
全国 第**12**位

(令和4年)

2,473 億円

出典 農林水産省 生産農業所得統計

産業別名目県内(国内)総生産



出典 統計局 国民経済計算(令和3年度)

県民所得(1人当たり)

全国 第**11**位 **3,187**千円 (令和3年度)



出典 内閣府 経済社会総合研究所 県民経済計算

製造出荷額

全国 第**13**位

(令和4年)

9兆5,624 億円



(令和4年)

出典 経済産業省 工業統計

生活環境

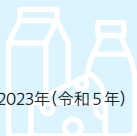
物価

平均消費者物価地域差指数の低さ
「総合」

全国 第 **3** 位

都市別で前橋市は全国第2位／52か所
※都市は県庁所在地および政令指定都市

出典 総務省 小売物価統計調査(構造編)2023年(令和5年)
消費者物価地域差指数



住宅・地価

令和6年都道府県地価調査
「住宅地 平均価格の安さ」

関東 第 **1** 位

31,400 yen / m²

出典 国土交通省 令和6年都道府県地価調査



医療

子ども医療費（18歳年度末まで）

無料



入院・通院とも所得制限、一部自己負担無し（令和5年4月1日現在）令和5年10月より15歳から18歳へ引き上げ。

教育

中学校一学級あたり
経費の安さ

全国 第 **1** 位

教育分野別在学者一学級当たりの経費

出典 文部科学省
令和4年度地方教育費調査(令和3年会計年度)



中学校生徒一人あたり
経費の安さ

全国 第 **5** 位

教育分野別在学者・国民一人当たりの経費

出典 文部科学省
令和4年度地方教育費調査(令和3年会計年度)



豊かな観光資源

にっぽんの温泉100選
第38回(2024年度)総合ランキング

第 **1** 位 **草津温泉**



全国の旅行会社やOTAの社員など「旅のプロ」が選んだ温泉ランキングで、草津温泉や12位の伊香保温泉をはじめ、35位以内に5つの群馬県の温泉がランクインしています。群馬県は「温泉文化」のユネスコ無形文化遺産登録に向けて活動しています。

出典 観光経済新聞社

アクセスの利便性



高崎インターから高速道路を利用して

高崎インターチェンジ	50分	87km	東京 (練馬 I.C.)
	2時間26分	211km	新潟 (新潟西 I.C.)
	3時間23分	327km	仙台 (仙台宮城 I.C.) (岩舟JCT経由)
	4時間17分	384km	金沢 (金沢東 I.C.)
	4時間20分	415km	名古屋 (名古屋 I.C.)
	6時間6分	572km	大阪 (東大阪北 I.C.)

高崎駅から新幹線を利用して

高崎駅	50分	東京駅
	1時間10分	新潟駅
	1時間45分 (大宮駅経由)	仙台駅
	2時間	金沢駅
	2時間40分 (東京駅経由)	名古屋駅
	3時間40分 (東京駅経由)	新大阪駅

豊富な資源

再生可能エネルギー・森林資源・日照時間

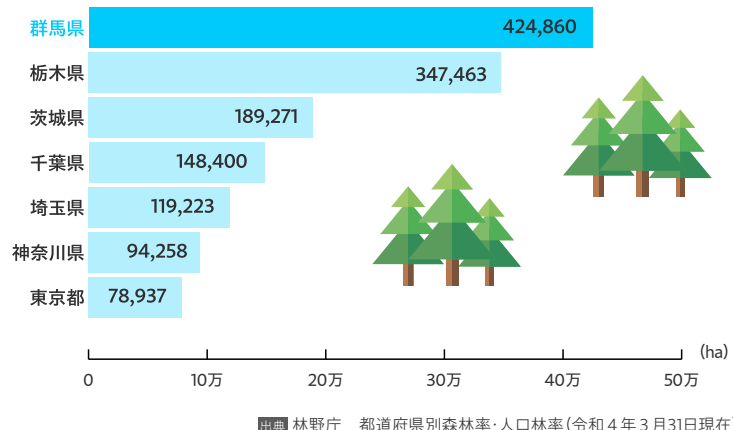
群馬県では、2019年度に「ぐんま5つのゼロ宣言」を行いました。持続可能な社会を構築するとともに、県民の幸福度を向上させるため、2050年に向けて5つのゼロ実現を目指すものです。その中に、**温室効果ガス排出量の実質「ゼロ」**と**災害時の停電「ゼロ」**があります。

また、2024年度の重点施策の一つに「群馬モデルの発信」を掲げ「**再生可能エネルギーの導入支援**」と「**県有施設脱炭素化**」に積極的に取り組んでいます。群馬県は自然豊かで、再生可能エネルギーを考えるのに必須となる森林資源、水資源、自然条件に恵まれています。

森林資源

関東地方では森林面積 **1** 位
県の66.8%が森林

全国47都道府県で **2** 位



再生可能エネルギー

群馬県営事業用の
水力発電所

33 か所



県営発電所による
電力供給実績は
全国公営企業で

1 位 **626,939MWh**
(水力・2023年度)

出典 群馬県企業局 発電電力量の推移

日照時間

全国トップレベル 日照時間全国 **2** 位
2,497時間

出典 総務省 統計でみる都道府県のすがた 2025

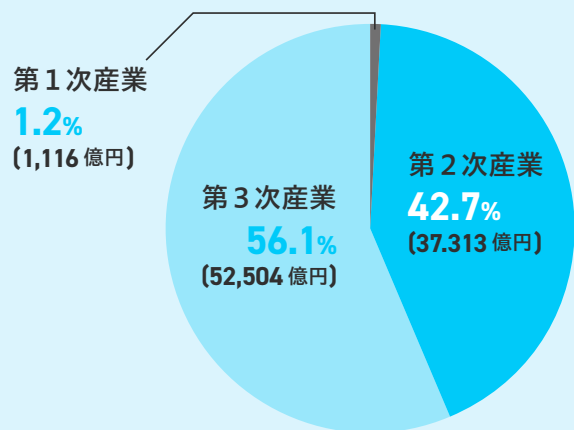


トピックス 群馬県は太陽光発電を積極的に推進

群馬県では、温室効果ガスの排出ゼロ、災害時の停電ゼロを目指すための再生可能エネルギーとして太陽光発電を積極的に推進しています。

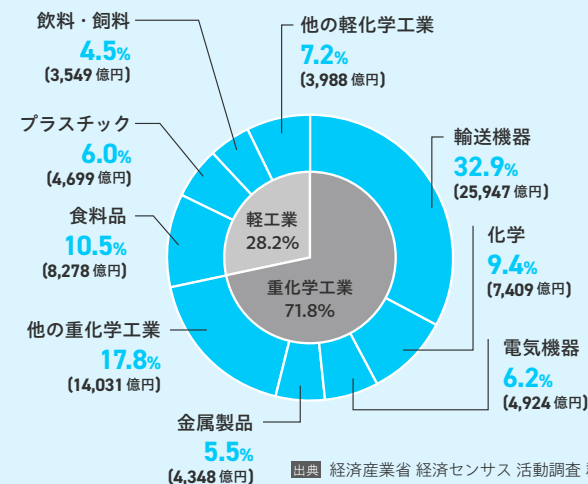
特に、2023年度には、群馬県とKDDI株式会社、auリニューアブルエナジー株式会社の3者により、「GX(グリーントランスフォーメーション)推進による自立分散型社会の実現に向けた連携協定」を締結しました。

産業構造



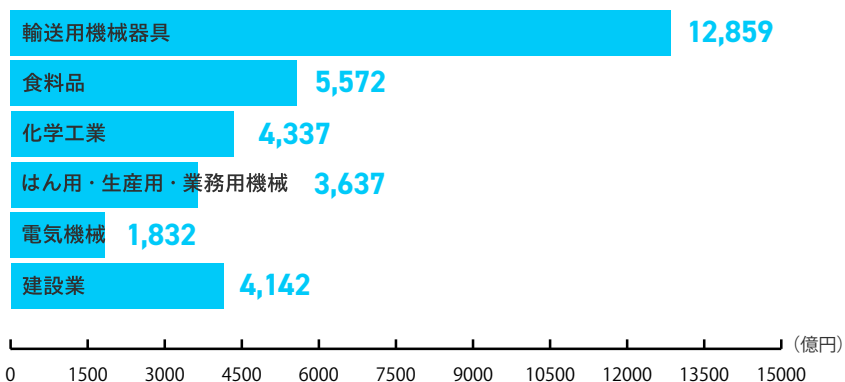
出典 令和4年度県民経済計算

製造品出荷額



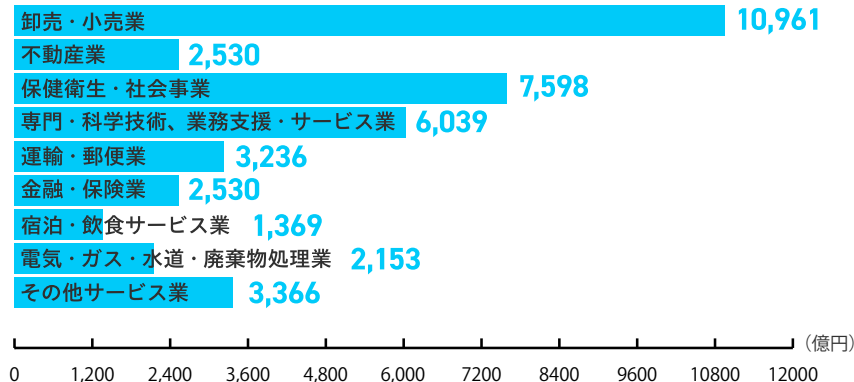
出典 経済産業省 経済センサス 活動調査 群馬県の工業 (令和3年)

産業分類別 | 第2次産業県内総生産



出典 令和4年度県民経済計算

産業分類別 | 第3次産業県内総生産



出典 令和4年度県民経済計算

デジタル・クリエイティブ産業

群馬県では、更なる経済発展のために 10年後、20年後の未来を見据えた群馬県ならではの未来産業の創出を目指しています。デジタル・クリエイティブ産業はその未来産業の柱の一つです。

デジタル・クリエイティブ産業とは、デジタルとクリエイティブ（エンターテインメント）を掛け合わせることで「人々を魅了するワクワクする付加価値」が新たに生まれ、新産業の創造や既存の産業全体の成長につなげようとするものです。

新たな産業の柱

デジタル・クリエイティブ 産業

「人を魅了するワクワクする付加価値」

産業全体（製造業、観光業、建設業等）に**新たな価値**を与え、**成長実現**



デジタル
産業

デジタル技術を活用した産業

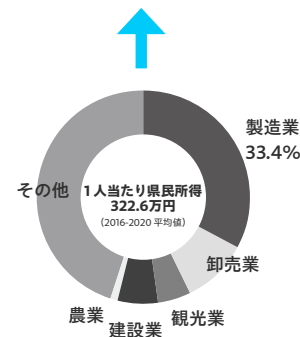
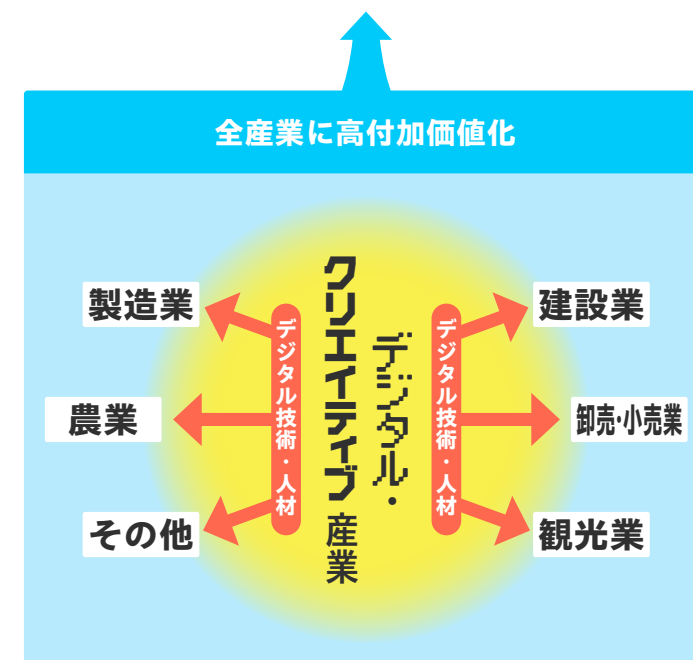


クリエイティブ
産業

コンテンツ・エンタメ産業等

目指す姿 | 2040年

全産業で**成長実現！** 1人当たり県民所得大幅増



群馬県では、群馬の強みを生かした独自の「群馬モデル」を発案・実行し、国内外への発信を加速するため、多様な人材や考えを受け入れ、群馬から新たなビジネスが次々と創出される「全県リビングラボ構想」の実現に取り組んでいます。

日本におけるリビングラボは、地域住民の社会課題を、企業や行政と協力しながら解決する取り組みとして、新しいビジネスが生まれ、より住みやすい地域社会になることが期待されています。

群馬県では新しいアイデアや技術を持つ民間企業等の伴走支援をしながら、一緒にビジネスを作り発信していく取り組みを推進しています。

その取り組みの一つが「ぐんま未来イノベーション LAB」です。



ぐんま未来イノベーション LAB

ぐんま未来イノベーション LAB は、「異業種連携」・「官民共創」により、新たなビジネスの創出・地域課題解決を加速させるための異業種連携プラットフォームです。

- 1 場所** → 群馬県内でご活用いただける実証フィールドの発信
- 2 きっかけ** → 群馬県での新たな実証プロジェクトを対象とする「ぐんま未来共創トライアル補助金」
- 3 仲間** → ぐんま未来イノベーション LAB 会員間のネットワークの形成支援

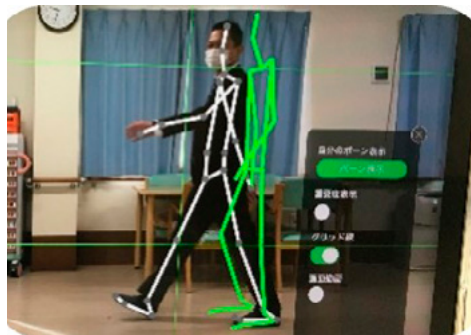


群馬県最新アクション

ぐんま未来共創トライアル補助金

群馬県では、「新しいことは群馬で試す」をテーマに、群馬県をフィールドとした新たなビジネスの実証・実証プロジェクトについて、1件最大3,000万円の支援を行っています。

2022年度の支援開始以降、重点領域である「VIRTUAL・AI」、「交通・物流」、「医療・ヘルスケア」、「アグリテック・フードテック」、「防災・レジリエンス」、「インフラメンテナンス」、「グリーンテック」の7領域において、30件以上の実証プロジェクトが創出されています。



群馬県内のフィールド紹介

群馬県を舞台とした新たなビジネスの実証にご活用いただけるフィールド（道路、公園、ダム、歴史遺産、工場、廃校など）を公開。

円滑な実証の実施に向けた調整、規制緩和等の伴走支援を実施しています。

群馬県庁舎 (NETSUGEN) [前橋市]



町通 [大泉町]



富岡製糸場 [富岡市]



草木ダム [みどり市]



旧南雲小学校 [渋川市]



→ フィールドの詳細はこちら



群馬県最新アクション

デジタルクリエイティブ人材育成拠点

群馬県は、県独自のデジタルクリエイティブ人材育成拠点「tsukurun」と、国際的に評価の高い人材育成プログラムをアジアで初めて導入する「TUMO GUNMA」によって、日本一のデジタルクリエイティブ人材輩出県を目指しています。



小中学校向けデジタルクリエイティブ人材育成拠点「tsukurun」を2022年3月にオープンしています。

こどもたちが最先端のデジタル機材やソフトウェアで創作できる環境を整備することで、将来活躍するデジタルクリエイティブ人材を育成します。



「TUMO Gunma」は、国際的に評価の高いアルメニアのTUMOセンターの人材育成プログラムをアジアで初めて導入する施設で、2025年夏、大型コンベンション施設「G メッセ群馬」にオープンします。

中高生に対して世界標準のデジタル・クリエイティブ分野における学びの機会を提供します。

設備投資や工場等の新增設に対する支援

(地域未来投資促進法による支援)

1 地域未来投資促進税制

	機械装置 器具備品	建物 附属設備 構築物
通常類型	特別償却 35% または 税額控除 4%	
上乗せ類型 A	特別償却 50% または 税額控除 5%	特別償却 20% または 税額控除 2%
上乗せ類型 B	特別償却 50% または 税額控除 6%	

2 地方税の優遇制度 (一部市町村のみ)

- 土地・家屋・構築物の固定資産税課税免除 **3年間**
- 取得価額下限：1億円以上 ※農林漁業関連は5千万以上

3 その他加点点措置・優遇措置

事業計画の承認事業者は各種国補助事業（一部）申請時に加点点や優遇措置が受けられます。

本社機能・研究開発拠点等の移転・拡充に関する支援

(地方拠点強化税制による支援)

1 地方拠点強化税制

	移転型	拡充型
	東京 23 区からの移転	東京 23 区外からの移転 または 機能拡充
オフィス減税 建物、附属設備、構築物の 取得価額に対する優遇	特別償却 25% または 税額控除 7%	特別償却 15% または 税額控除 4%
雇用促進税制 雇用者等の増加数 に応じた優遇	最大 50 万円 の税額控除 上乗せ分 最大 3年間 40万円 の税額控除	最大 30 万円 の税額控除

2 地方税の優遇制度

税目	優遇内容	対象
不動産取得税	課税免除	移転型
法人事業税	3 かに渡って 1/2、3/4、7/8 に減税	移転型
固定資産税	課税免除、不均一課税 ※一部自治体のみ	移転型・拡充型

※適用要件等の詳細は、各自自治体へお問い合わせください。

「地域未来投資促進法による支援」「地方拠点強化税制による支援」の
詳しい内容はこちらの二次元コードからご覧ください。



群馬県クリエイティブ産業移転促進補助金



ゲーム



アニメ



マンガ



映画



映像



音楽

コンテンツの企画、制作等を行う企業

- 1 県外本社が群馬県への所在地変更
- 2 県外本社企業の新規事業所を群馬県内に設置
- 3 県外本社企業等による群馬県内での新企業設立

のいずれかに該当する場合



区分	対象経費	金額	限度額
A 初期費用	事業のための償却資産の取得費 PC、コピー機、内装改修等		
B 運営費用	賃料 オフィス、什器リース等	対象経費の 1/2	
	通信料 インターネット回線、プロバイダ料		
C 雇用助成	新規雇用に対する奨励金	1人あたり 30万円	
			A B Cの 合計で 200万円

補助には上記のほかにも各種交付要件があります。
詳しい内容はこちらの二次元コードからご覧ください。



進出企業の声

コンサルティング事業

accenture

アクセントチュア株式会社
アクセントチュア・アドバンテスト・テクノロジーセンター前橋〔前橋市〕

テクノロジーと人間の創意工夫で、クライアントのニーズに応え、
まだ見ぬ未来を実現します。



センター長
田中 慎二 様



中核都市が日本を成長させるエンジンになる。

世界規模でコンサルティング事業を展開する弊社は、2023年5月、群馬県庁30階に「アクセントチュア・アドバンテスト・テクノロジーセンター前橋」を開設しました。

群馬県は、行政の方々が非常に前向きで変革意識にあふれ、物事が一つひとつ早く決まって動いていく、スピード感のある地域、そんな土地ではないかと思っています。国内には100万都市もたくさんありますが、30～40万人規模の中核都市が非常に多く、地域を元気にしていくためには、中核都市がひとつのキーになると考えており、この前橋をモデル地域として大きく羽ばたいていくという形をつくることができれば、それを日本中に広げられると思っています。ここでの成功が日本の成長を促していくエンジンドライバーになっていくという思いでこの前橋の地に拠点を設けました。

拠点開設にあたっては、弊社の知名度を上げて優秀な方々に活躍いただくための採用を進めていくことが1番のチャレンジでした。しかし、同業他社から人を引き抜くようなことをしては、その地域が盛り上がることはない。採用のターゲットはもともと群馬出身で、他の地域で働いている方がUターンして来たり、群馬に魅力を感じて、Iターンしたいと思っているような方を主にターゲットとして採用活動しております。我々の仕事は多くの場合が大企業向けで、東京や大



阪、あるいは日本企業の海外拠点向けの仕事というのが大半を占めています。そこから得たノウハウ、経験をこの地域に還流していきたいと思っています。

IT業界は70～80万人労働力不足だとも言われています。

一方、人工知能AIなどいろいろな技術が出てきています。我々がそういったものを駆使しながら、生活をより良く変えていけるような、そんなITの活用を推し進めるのが会社としてのミッションでもございます。

それを下支えするインフラのテクノロジーやそこから派生した旧来型のITの仕組みを新しい世代にトランスフォームしていく、そういったお手伝いをしていく拠点としてこの群馬県、前橋市がどんどん発展していくというような未来を描いております。

変革意識にあふれ、スピード感のある地域。

続きはこちら。インタビュー動画が視聴できます。



進出企業の声

エネルギー事業

au リニューアブルエナジー auリニューアブルエナジー株式会社〔東京都〕

再生可能エネルギーの発電事業を通して、“自然”と“地域社会”をつなぎ、地球環境の保全と社会の持続的成長に貢献する。



代表取締役社長
鈴木 吾朗 様



群馬県に根づく「共創の精神」

au リニューアブルエナジーは、KDDIグループの再生可能エネルギー発電事業者として、全国の基地局、通信局、データセンターなどに電力を供給しています。2023年6月に、群馬県、KDDI、au リニューアブルエナジーの3者で、「GX推進による自立分散型社会の実現に向けた連携協定」を締結しました。これは、群馬県の豊かな自然とKDDIグループの再エネ発電に関する知見を合わせて再エネを活用した新しい社会基盤・電力インフラを共創し、脱炭素社会の実現を3者で牽引しようとの趣旨です。

事業を展開する地として群馬県を選んだのは、まずは太陽光を利用した再エネの発電ですので、日照時間や平地がある、冬でも降雪量が少ないなどの適地が多くあるエリア、という条件に合致していたことが挙げられます。また、太陽光発電というのは、行政や地域住民の方の理解が不可欠な事業体で、特に行政の理解は非常に重要です。その点、群馬県は県として再エネの導入率、導入量を目標にされている県ですので、関東の中でも事業推進の後押しをしていただける環境であり、自然環境としても好条件が揃っていました。現在、全国的に見ても新たな取り組みですが、県有施設に太陽光パネルを設置する、蓄電池の導入も提案しています。災害時の拠点で電気を賄えるようにしたり、県の業務に利用したり、そういったことを考えています。

群馬県は、民間企業の投資を呼び込み、ともにつ



くる、“共創”という言葉をよく使っていますが、その精神が非常に群馬県の皆さんの中に根づいていて、Win-Winの関係をつくろうという意思やトップの強い思いを感じながら、事業が展開できています。民間の力をいかに活用するかというところに重きを置いて、行政側の利害のみならず、やはり民間企業との関係をいかにつくるかというところに、非常にご尽力いただいたというのが本当に印象的でした。非常に先進的な取り組みを行っている県だなという印象を受けました。再エネに限らず、さまざまな新しい取り組みを県として推進する、と志向されていますので、投資などについて話し合う自治体としても非常にいいんじゃないかなと思っています。今後さらにさまざまな分野で共創環境をつくっていくところで群馬県には大変期待しています。

民間の力を活用、事業の推進力に。

続きはこちら。インタビュー動画が視聴できます。



進出企業の声

ビジネスプロフェッショナルサービス

Deloitte デロイト トーマツ グループ MAEBASHI Social Innovation Hub [前橋市]
デロイト トーマツ

クライアントのベストパートナーとしてコンサルティングメニューを
組み合わせ、課題解決を支援します。



責任者
香野 剛 様



群馬発の社会課題の解決事例を全国に。

我々は社会課題解決の実証だけではなく、行政、民間の皆さまと一緒に実装に取り組むことができる場（地域）を探していました。群馬県は元々さまざまな先進的な施策に取り組まれていますし、前橋市は民間主導で10年にわたってまちづくりをされています。我々の社会課題への取り組みにあたって、最適な場と考えたのが前橋に拠点を開設した1番の理由です。

また、企業としてクリーンなグリーンエネルギーがある地域に拠点を構えることは、カーボンニュートラルに貢献する形になります。群馬県が持っている水力発電を中心としたグリーンエネルギーは、ポイントのひとつになりました。さらに、レジリエンスという面では災害が少ないところ、そして東京からの程よい距離感人材を確保するのに適しているなども群馬県を拠点に選んだ理由です。

拠点開設当時は、人材をいかにスピーディーに確保できるかが1番のチャレンジでした。我々は現地の方々に働く場を提供したいという思いでやっており、現在100名を超える方が働いています。今後も人員を拡充していくことを考えています。この規模のオフィスは国内では東京、大阪、名古屋、福岡のいわゆる主要都市のみで、それ以外は前橋市だけです。地方に住む学生さんが東京に行かなくとも、東京と同じ仕事ができる環境を整備することで、地方からの人材流出



を解決していきたいという思いもあります。我々が前橋にいかにかフォーカスしているかということが分かっていたかだと思います。

前橋では、「めぶくID」というデジタル認証の仕組みを実装できたのが1番の成功事例です。これからも群馬県の皆さんと連携して、市民の方、県民の方々がDXを実感していただける、そういう状況ができればと思っています。

群馬県は、DXをはじめとする新しい施策に取り組んでおり、ソーシャルイノベーションを生み、育てていくような土壌が群馬県にはあると思います。新しく進出してこられたみなさまと群馬県発の社会課題解決の事例を一緒に作っていただければと思っています。

グリーンエネルギーとレジリエンス。

続きはこちら。インタビュー動画が視聴できます。



進出企業の声

タイヤ製品関連事業



日本ミシュランタイヤ株式会社〔太田市〕

「すべてを持続可能にする」こと、「すべてのモビリティの長期的な発展に貢献する」ことを使命とし、タイヤ関連、さらに、ハイテクマテリアルなど革新的なイノベーションを展開していきます。



代表取締役社長
須藤 元 様



地域の自治体、企業と一緒に価値創造ができる。

日本ミシュランタイヤは群馬県太田市の研究開発拠点と、営業を中心とした東京の2拠点でやってきました。しかし、これからいかに価値創造を増やしていくかを考えたとき、リモートワークをマスターした今であれば、いろいろなことができるのではないかと、本社移転を決断しました。

ただ、本社移転には大きな2つの不安要素がありました。ひとつは、社員が東京拠点からスムーズに引っ越せるわけではないこと。そしてもうひとつは、地域とコラボしてゆくのにあたって歓迎してもらえるのか、ということです。しかし、その不安はすぐに解消しました。まず、働き方については、社員からのアイデアや意見を聞きながら皆で決めました。リモートワークという働き方は、勤務時間と通勤時間を分けずに、通勤中に働いているのであれば、就業時間としてカウントする形で就業規則を変えるなど工夫しました。また、本社移転検討の際、社員とともに真っ先に県や市の方にご相談しました。その時に実は大変歓迎いただき、地域の横のつながりでも地元の企業の方から歓迎のお言葉を頂いたのです。

本社移転をきっかけに PARK 棟を建設し、今まで社員が一同に会する場を用意するのが難しかったのが、今は実現できている。私たちが目指しているワンチームでより集合知でコラボレーションして新たな価値創造する場ができたと思います。



PARK 棟は、ガラスが多くて開放的なのでけれどもガラスの先に見えるのがコンクリートの壁ではなく、豊かな自然というところは他にはない価値だと思っています。

また、観光産業もありながら、工業地帯としても非常に発達している地域もあり、ビジネスとしてのバリエーションが非常に広いと思います。そして、県全体として疎外感がない。何かあれば共同でできる可能性があると感じられるのが魅力です。

欲を言えば、より強く変化の後押しをすれば、群馬県が日本の中でも最先端、世界標準、またリードするところに早く到達できると思うので、ぜひ皆さんと一緒にやっていきたいです。私の経験からいくと、他の企業様にもぜひお勧めしたいと思いますし、群馬県に移転できてよかったなと体感しています。

変化の後押しで日本をリードする存在へ。

続きはこちら。インタビュー動画が視聴できます。





INVEST GUNMA

群馬県産業経済部未来投資・デジタル産業課
E-mail miraitoushi@pref.gunma.lg.jp